



# 校報 あずまね

<https://shiwa3.chu.jp>

時間啄啖

文責 佐藤智一

## 新時代～最高の仲間と共に～三中祭を終えて



文化祭記録写真は学校ウェブサイト<<https://shiwa3.chu.jp>>をご覧ください。

生徒会執行部の寸劇で開幕した今年の三中祭は、合唱だけだった昨年に学年自由演目も加えた2部構成のプログラムでした。みんなで一斉に歌う姿ばかりでなく、それぞれの役割や出番もあったので、生徒一人ひとりのさまざまな姿、表情を見ていただきました。そこには、合唱でもステージ発表でも「今の自分たちを伝えたい」という思いが流れていたのではないかと思います。

声高らかに歌うことが自信や誇りにつながる「校歌斉唱」。1年生の元気で伸びやかな「大切なもの」。2年生の成長と団結力を感じさせられた「地球星歌」。3年生の情熱的な「This Is Me」。特設合唱部の丁寧な発声で4パートが響き合う「校歌四部合唱」、心がこもった「この町が好き」、歌の世界観の広がり伝わった「君を載せて」。みんな愛おしくなる歌声で、もっと聴いていなくなる音楽会になりました。

各学年の自由演目は、夏休み前から構想を練り2学期から本格的に取り組んできたものでした。1年生にとっては初めての学年取組です。「翼聖歌」の群読からアッチッチに展開する演出には思わず笑みがこぼれました。2年生は、ふるさと学習で学んだことをもとにした構成演劇「水と稲 輝くふるさと 紫波町」を全員がワンチームになって作りあげました。紫波三中にしか出来ない内容です。11月の岩手県中学校文化祭でも、盛岡地区代表校として堂々と発表してきて欲しいと思います。3年生は、「三中ステーション」という寸劇に自分たちの中学校生活の楽しかった思い出を散りばめて表現しました。思い切り自分をさらけ出し、それを受け止めてくれる学級の仲間たちの和や互いへの感謝の気持ちが伝わってきた舞台でした。

仲間と一緒に一つものをつくり上げる経験は、大変だけどやりがいのあることです。みんなで意見を出し合い、それを一つにまとめ、観客にどう伝えるか考え、実現のための計画を立て、練習を重ね、修正し、本番に臨む。意見の衝突があったり、気持ちがまとまらなかったり、時間が足りなかったりと、さまざまな事態に直面しながら、それを乗り越えていく。その過程に他者と協働し未来を切り開いていく力が養われていくのだと思います。

自分たちの未来を自分たちの手でつくること。それはこれからも続きます。間も無く後期生徒会役員選挙。代が替わっても、明日をつくり続ける紫波三中であり続けたいと思います。